

## 加齢性難聴者に対する補聴器活用調査結果について

### 【Ⅰ. 補聴器調査事業の概要】

#### 1. 補聴器活用調査事業について

コロナ禍による高齢者の社会参加活動低下を踏まえ、加齢性難聴者の補聴器使用前後における社会参加活動状況等を把握する補聴器活用調査を実施した。調査協力者へは2万円を上限として補聴器購入費用を助成した。

#### 2. 対象者

本事業への応募者454名を対象とし調査を実施した。調査期間中、辞退者が生じたことから、合計3回公募を行っており、募集期間・事業対象者の条件は以下のとおりである。

<募集期間>・1次募集(R4.4)・2次募集(R4.11)・3次募集(R5.4)

<条件>① 兵庫県内に住所を有している者 ② 満65歳以上の者

③ 聴覚障害による身体障害者手帳の交付を受けていない者

④ 耳鼻科医師の診断を受け、補聴器が必要と判断された者

⑤ 認定補聴器技能者により本人に合わせて調整された補聴器を購入した者

#### 3. 調査方法

補聴器使用前後の状況について、応募時と応募後の計2回、郵送法による自記式質問紙調査を実施。

### 【Ⅱ. 調査結果】

R5.10追跡調査(任意)に協力を得られた413件(回収率91%)のうち、有効回答407件(有効回答率90%)を集計

#### 1. 対象者の属性

対象者の属性について表1に示した。対象者の平均年齢は80.5歳であり、80代(45.7%)が最も多く、次いで70代(37.9%)、90代(10.5%)であった。

補聴器1台当たりの購入金額は10万円～20万円(63.6%)が最も多く、次いで10万円以下(24.6%)、20万円～30万円(10.1%)、30万円以上(1.7%)であった。JapanTrack2022の調査<sup>\*1</sup>では、20万円以下は63%であり、本調査の88.2%と比較すると、本調査の方が1台あたりの購入価格は低かった。

所得金額の平均は199万8千円であり、厚生労働省の国民生活基礎調査(2022)<sup>\*2</sup>によると、70歳以上の世帯人員1人当たり平均所得金額は194万6千円である。本調査では対象者の94.1%が70歳以上であることから、本調査における所得金額は全国平均とほぼ同水準である。

表1 対象者属性

(N=407)

項目	内訳	n	%
性別	男	172	42.3
	女	235	57.7
年代	70歳未満	24	5.9
	70歳以上75歳未満	45	11.1
	75歳以上80歳未満	109	26.8
	80歳以上85歳未満	115	28.3
	85歳以上90歳未満	71	17.4
	90歳以上95歳未満	40	9.8
	95歳以上100歳未満	3	0.7
購入種別	片耳	227	55.8
	両耳	180	44.2

項目	平均値	中央値(範囲)
使用期間(月)	13.9	15(5-18)
購入金額(円) (片耳)	145,409	132,541(46,000-945,000)
購入金額(円) (両耳)	291,849	279,950(55,380-1,062,000)
所得額(円)	1,998,664	1,466,728(0-47,700,099)

## 2. 社会参加活動日数・意欲

補聴器使用前後の社会活動参加日数は表2に、社会参加活動日数と活動意欲の変化は表3に示した。表3の「活動日数」については、①～④の活動全てにおいて「変化なし」が最も多かった。「活動意欲」については、①の活動では「減少した」が、②③④の活動では「変化なし」が最も多かった。

表2 社会参加活動日数(日/月) (N=407)

	平均	
	使用前	使用后
①自治会・老人クラブの活動	1.0	1.3
②ボランティアのグループ活動	0.7	1.0
③趣味やスポーツのグループ活動	3.5	4.4
④就労活動(他者と関わるもの)	2.3	2.2

※複数のグループ活動に参加している場合、延べ日数で回答を求めている。

表3 社会参加活動日数・社会参加活動意欲の変化 (N=407)

	社会参加活動日数						社会参加活動意欲					
	増加した		変化なし		減少した		増加した		変化なし		減少した	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
自治会・老人クラブ活動	92	22.6	236	58	79	19.4	93	22.9	156	38.3	158	38.8
ボランティアのグループ活動	67	16.5	302	74.2	38	9.3	109	26.8	150	36.9	148	36.4
趣味・スポーツのグループ活動	138	33.9	169	41.5	100	24.6	165	16	199	48.9	143	35.1
就労活動	50	12.3	298	73.2	59	14.5	117	28.7	157	38.6	133	32.7

## 3. 日数・意欲等の変化理由

社会参加活動への参加日数と参加意欲の変化理由については表4～表5に示した。

表4の参加日数が増加した又は変化しなかった理由は、「補聴器を使用したことで社会参加活動がしやすくなったから(43.6%)」が最も多かった。

「その他」では、「会話・発言が多くなった(70代男性)」、「外に出るのが楽しくなった(70代女性)」などが確認された一方で、補聴器を使用したものの「聞こえが変わらない(80代男性)」、「補聴器使用に違和感があり使用しなくなった(80代女性)」などの意見もあった。

表4 社会参加活動日数が「増加した・変わらない」と回答した理由 ※複数回答 (n=353)

内訳	n	%
補聴器を使用したことで社会参加がしやすくなったため	154	43.6
コロナが収束し社会参加がしやすくなったため	99	28.0
体調面が改善したため	36	10.2
生活環境が改善したため	42	11.9
その他	110	31.2

表5の参加日数及び活動意欲の減少理由は、共に「加齢による意欲減退」が最も多かった。

「その他」では、「入院し外出できなくなった(80代男性)」、「持病が悪化し外出を控えるようになった(70代男性)」等、健康状態に関する意見が主であった。

表5 参加日数や活動意欲が「減少した」と回答した理由 ※複数回答 (n=47)

内訳	参加日数		活動意欲	
	n	%	n	%
年齢を重ねるにつれ、意欲が減退していると感じるため	23	48.9	137	61.7
新型コロナの感染状況が落ち着いたものの、依然として人との接触に不安があるため	13	27.7	34	15.3
補聴器を使用していない、又は、効果を実感出来ていないため	6	12.8	20	9.0
補聴器を十分な時間使用できていないため	2	4.3	9	4.1
その他	22	46.8	85	38.3

### 【参考・引用文献】

- ※1. JapanTrak(2022) : APAC Trak JapanTrak 2022 調査報告  
[http://www.hochouki.com/files/JAPAN\\_Trak\\_2022\\_report.pdf](http://www.hochouki.com/files/JAPAN_Trak_2022_report.pdf)
- ※2. 厚生労働省(2022) : 国民生活基礎調査  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/dl/14.pdf>